

研修員's VOICE

Vol. 33

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

11 住み続けられる
まちづくりを



出典:外務省HP



ナシールさん(左)とご家族。2020年5月現在、コロナウィルス感染拡大の影響により帰国できませんが、ご家族で前向きに過ごされています

氏名: Mr. NASIRY Nasir Zia (ナシールさん)

国名: アフガニスタン・イスラム共和国

コース名: 長期研修 未来への懸け橋・中核人材育成プロジェクト(PEACE)

研修期間: 2017年 3月 30日 ~ 2020年 3月 31日

アフガニスタンってどんな国？

南アジアに位置するアフガニスタンは、人口約3千万人、面積65万km²(日本の約1.5倍)、周囲6ヵ国と国境を接する内陸国です。かつてユーラシア大陸の東西交通路とインドを結ぶ「文明の十字路」として栄え、シルクロードの要地として多彩な文化が生まれました。人々を魅了する地であるにもかかわらず、長年にわたる戦争や紛争により、残念ながら、国は今現在も多くの問題に直面しています。しかしメディアで伝えられているアフガニスタンの様子だけが、全てではありません。「百聞は一見に如かず」と言うとおり、将来安全の状況が改善したら、ぜひ皆さんには一度アフガニスタンを訪れてほしいと思います。



故郷ヘルマンド州にあるポストカラ城の入口跡

日本ではどんなことを学びましたか

私はヘルマンド大学で助教授をしていますが、幸運にも海外で学ぶ機会を得て、専攻である地震工学の分野で非常に進んでいる日本を留学先として選択し、琉球大学工学部の博士課程で3年間学びました。

母国ではこの20年で約7千人、周辺諸国でも約10万人が地震により亡くなっています。大学ではアフガニスタンの建物の弱点を分析し、振動台下にて様々な建築モデルをテストし、アフガニスタンの耐震建築物を建設するためのより良いモデルを提案しました。大学生活はとても素晴らしく、何より、いつでも私を助けるため駆け寄る沖縄の人々の優しさと正直さに感動しました。



母国の大学の研究サイトにてコンクリートの品質管理を行うナシールさん

アフガニスタンの未来に向けて

沖縄滞在中の印象的な出来事のひとつに、アフガニスタンで活動されていた故・中村哲医師との出会いがあります。母国の安定について意見を交わす中で、「あなたたち若い世代はアフガニスタンの未来だ。支援を待つのではなく、自分たちが動くのです。アフガン人が働かずに外国人にアフガニスタンを築くことはできません。」と我々留学生を励ましてくれました。アフガンのガンジーを失った悲しみと、先生の言葉は忘れることはありません。

帰国後は大学に戻り、日本での学びを学生たちと共有し、将来アフガンの人々が貧しい建設による脅威から開放され安全な生活ができるよう取組みたいです。



2017年、沖縄での講演会の後に懇談する中村医師(左)とアフガニスタンの研修員(左から2人目がナシールさん)

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、「誰一人取り残さないーNo one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針で、17のゴールが設定されています。JICAはSDGsの達成に向けて積極的に取り組み、17のゴールに貢献する研修を実施しています。